

平成22年5月20日現在

研究種目：「基盤研究（C）」
研究期間：2007～2010
課題番号：19520466

研究課題名（和文） 定住インドネシア人就労者のライフコースと日本語習得についての研究
研究課題名（英文） A Study of life-course and Japanese language acquisition in long-time resident workers from Indonesia

研究代表者

吹原 豊 (FUKIHARA YUTAKA)
フェリス女学院大学・留学生センター・講師
研究者番号：60434403

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：異文化間コミュニケーション、ライフコース、日本語習得、定住インドネシア人就労者、エスニック・コミュニティ

1. 研究計画の概要

茨城県大洗町には約 1000 人のインドネシア人就労者が居住し、町の全人口の 5% を占めるエスニック・コミュニティを形成している（データは研究開始当時のもの）。就労者の中にはごく少数ではあるが、積極的に日本語を習得し、日常的に日本語を使用するものと、長期にわたる滞日であっても必要最低限の日本語しか運用できないものがある。また、学齢期の子女たちの中には、両親の日本語能力を著しく上回るものがある一方、母語の能力に問題があり、日本語が第一言語になりつつあるものも出てきている。そうした状況を踏まえ、申請者は本研究において概ね以下のことを明らかにしようとしている。

- (1) インドネシア人就労者および随伴子女の日本語使用の実態
- (2) コミュニティの成立、発展、機能、分散化と成員の日本語習得との関係
- (3) インドネシア人就労者のライフヒストリー
- (4) インドネシア人就労者の異文化受容、言語・文化の継承、ライフコース上の時間的展望
- (5) 大洗町および周辺自治体、日本人住民側の態度や取り組みの実態
- (6) 国内外にある他のインドネシア人コミュニティとの違い

2. 研究の進捗状況

インドネシア人コミュニティの中核を成しているインドネシア人キリスト教会での参与観察とインドネシア語を用いた聞き取

りを重点的に行っている。また、すでにラポールが形成されている複数のインドネシア人就労者の家庭を訪問し、家庭内の言語使用の実態について観察を継続的に行っている。加えて、インドネシア人就労者の日常生活における言語使用の実態を把握するため、病院や役場、買い物などに同行し、参与観察や関連する聞き取りを行っている。さらに、インドネシア人コミュニティの大多数の成員の出身地であるミナハサ地方に赴き、日本での就労経験者をはじめその家族、友人などの関与者を対象とした聞き取りを行った。帰国者の中には日本での経験を現地での起業に生かしている例が多く見られたため、日本での異文化体験を通して得たものについてのライフコース論の観点からの聞き取りを中心に行った。また、それと平行して乳児期に来日し、小学校高学年で帰国したインドネシア人男児を対象とした聞き取り等を行った。それ以外に大洗町のインドネシア人社会との比較事例として、三重県鈴鹿市、愛知県西尾市および韓国安山市のインドネシア人社会を訪問し、聞き取りを始め教会活動の際の参与観察等を行った。

調査結果については、研究成果の還元を目指し、今後の研究の深化を図るために国内外の関連する学会で積極的に報告を行っている。その中には調査協力者の出身地でのものも含まれている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

研究計画の概要で示した、本研究で明らかにしようとしたものに関してはある程度のデータの蓄積があり、一定の考察を加えたうえでその内容の一部を雑誌論文や関連学会での報告などの形で発表できている。しかし、

(1)に関しては主に職場での参与観察などが十分に実施できていない点に問題がある。また、随伴子女の言語使用に関しては本研究とは別立ての研究にする必要性が感じられるほど大きなテーマであり、現段階では十分なデータの蓄積があるとは言えない。(3)～(6)に関してもデータの質・量に濃淡があり、今後の研究における一層の努力の必要性を感じている。そうした状況から、②の達成度としたものの、見方によっては遅れている部分があることも実感している。

4. 今後の研究の推進方策

調査において、キリスト教会での参与観察を行う際などに、同じ時間帯に行われている日曜学校での参与観察を行い、随伴子女の言語使用についてのデータの蓄積を図っていくことを考えている。また、雇用主の許可を得ることや適当な職場の選定が難しいものの、インドネシア人就労者の職場での日本語使用の実態を知るための方策として、職場での参与観察を計画中である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

①吹原豊「移住労働者の言語習得—韓国におけるインドネシア人社会での事例—」『地域文化研究』査読有、第8号、2010年、27-46頁。

②吹原豊「韓国における移住労働者—安山市におけるインドネシア人社会の事例—」『地域文化研究』査読有、第7号、2009年、31-44頁。

③吹原豊「移住労働者にとっての日本滞在」『地域文化研究』査読有、第6号、2008年、27-48頁。

[学会発表] (計11件)

①吹原豊「滞日外国人コミュニティにおける日本語習得に関する実態調査」JSAA-ICJLE2009 豪州日本研究・日本語教育国際研究大会、2009年7月16日、ニューサウスウェールズ大学

[図書] (計1件)

①吹原豊・助川泰彦、明石書店、「第6章イ

ンドネシア人労働者の日本語自然習得：茨城県大洗町の事例から」『日本のインドネシア人社会』、2009年、157-172頁。